

2020/04/23

# リトルハウス通信

## 【在宅支援開始】

猛威を振り続けている新型コロナウイルスの影響により、施設利用者が通所をせず「在宅支援」を選択できる事になりました。

本来であれば通所により「工賃労働」、「食事」、「コミュニケーション」等を行っていくものですが、外出に不安を感じている方を対象に、生活状況（食事、睡眠、服薬、検温）や問題に感じている事を1日2回の電話で確認しています。

この電話をリトルハウスでは「在宅支援」としています。

そんな中、皆様からよく聞く話として「自宅にいとテレビで新型コロナウイルスの話題ばかりが流れていて、見ていて気持ちが落ち込んでくる」というものがあります。

「人と人が触れ合う場」で「こころを紛らわせる」ことが人間には必要なんだと感じます。その「こころを紛らわす」行為によって、厳しい現実をどうにか受け止める事ができる「余白」のようなものが生まれるのではないのでしょうか。

## 【リトルハウス開所は引き続き継続】

このような状況下だからこそ「触れ合いの場」としてのリトルハウスに、大きな存在意義があると私たちは考えています。東京都福祉保健局からも「利用者の方々やその家族の生活を維持する上で欠かせないものであり、利用者に対して必要なサービスを継続的に提供することが求められます」と、障害福祉サービス等事業所宛に4月10日付のメールで通達が届きました。事実、利用者の方々からもリトルハウスへの通所を希望する多くの願いが寄せられました。

以上を鑑みて、我々リトルハウスでは「在宅支援」と並行し、今まで通り「通所支援」も行っていく事を決断したのです。しかし現状で通所支援を行うという事は、室内の消毒作業の徹底、厳格な手洗いルール策定と実行、咳くしゃみマナー、ビニール手袋使用ルール、利用者、職員の距離を逐一確認し2メートル以上離す事、パーティションでの仕切り、東西南北すべての窓という窓を終日全開にしておく等々、他にも沢山のルールを設けた上での開所が条件です。事実、私自身、ここ1か月は1日の半分以上の時間をリトルハウス内の消毒作業に充てています。

このような窮屈な状況で開所する事に意味があるのかとも考えましたが、利用者の方々から沢山のルールを必死で守り、消毒作業にも積極的に参加する姿をみて私たちは考えを定めました。できる限りリトルハウスを開所していく、という事です。

それは利用者の方々から、リトルハウスを「触れ合いの場」として死守していきたいという強い想いが伝わってきたからです（もちろん状況によっては躊躇なく「事業所閉鎖」をしなければなりません。それは本当に躊躇なくです）。

今回の新型コロナウイルス騒動によって、人々の「触れ合いの場」が次々と閉鎖されています。しかしその事によって、我々人間にとって「人と人との触れ合い」がいかに大切で、どれだけ欲しているのかについて、自覚的になれたのではないのでしょうか。それは大きな学びであり、コロナ騒動が終息した後、次の困難に立ち向かう為の大きな財産になっていると私たちは考えています。

(鈴木)